

# 北海道交運共闘が第6回定期総会 仲間を増やし共同を広げよう 北海道検数労連から初めての参加

4月23日、北海道交通運輸労働組合共闘会議（北海道交運共闘）の第6回定期総会が開かれました。総会には各参加組合から20人が参加し、来賓の北海道検数労連から連帯のあいさつを受けました。建交労の参加者は道本部の森国委員長（北海道交運共闘副議長）をはじめ7人でした。

開会あいさつのあと、黒澤幸一議長（道労連議長）は「今年の総会には初めて検数労連から参加してもらった。さらに共同を広げて北海道交運共闘のとりくみを前進させたい。安倍政権の『働き方改革』は労働者をもっと働かせ、労働時間の概念をはずして生産性向上にかりたてようとするものだ。私たちのたたかいで9条改憲の通常国会での発議は難しくなっている。政治の私物化をあばかれて窮地におちいつている安倍内閣を倒すためさらにたたかいを強めよう。道民の足を守るとりくみも重要な課題であり、仲間を増やして共同を広げよう」と強調しました。

また、港での荷役作業の現場に立ち会って貨物の数量などの証明をする労働者で組織している北海道検数労連の岩崎大輔副委員長からは「港湾労働者は長時間労働の規制がされず、365日働かされようとしている。海上コンテナの内陸輸送ではフレキシブルパックによる荷物の片寄りなど安全が脅かされる問題が起きている。検数労連は、職域の確保とともに、ヒアリが日本に持ち込まれたことなど港における安全の課題でのとりくみを強めており、今後も北海道交運共闘のみなさんとともにがんばっていききたい」という西村拓也委員長のメッセージが紹介されました。

## トラック部会・佐藤部会長と鉄道本部・竹田委員長が発言

吉根事務局長から提案された議案にもとづいて討論がおこなわれました。建交労からは、北海道トラック部会の佐藤部会長が「トラックの職場では法令違反が8割という異常な働かされ方になっている。こうした状態から、昨年10月に組合員が過労死して労災認定された。運転手のなり手がなくなっているから『無人トラック』の開発がすすめられている。まともな業界にするには、標準運賃が必要だ」と発言しました。また、北海道鉄道本部の竹田委員長が「JR北海道が路線を廃止しようとしていることの根幹には国鉄分割・民営化があり、経営安定基金の運用益が半減したためだ。国の責任で安全な公共交通機関にするためにたたかいを強めなければならない」と訴えました。

## 官民の共闘を強め交通運輸労働者の要求前進へ

総会では満場一致で運動方針などを決定し、新年度役員を選出しました。副議長に森国委員長が再選され、事務局長に俵書記長（新）と幹事にトラック部会の佐藤部会長、鉄道本部の竹田委員長（いずれも再）が建交労から選ばれました。

森国副議長が「アベを辞めさせ、交通運輸労働者の要求を前進させるために官民の共闘をいっそう強めよう」と閉会あいさつし、黒澤議長の「団結がんばろう」で総会を締めくくりました。